

教員名	吉武信彦	所属学科	地域政策学科
<p><b>【ゼミでは何を学ぶのか】</b>          演習の研究テーマは、国際関係論、国際交流史です。          国際関係の理論、歴史を学び、それにより激動する国際関係を見極める「眼」を養ってほしいと思います。多くの専門書を読破し、自分から情報を積極的に集めることで各自の問題意識を深め、最終的に高水準の卒業論文を完成してもらえよう、厳しく指導します。</p>			
<p><b>【どのように学ぶのか】</b>          まず3年生を中心に国際関係論に関する概説書をできる限り多く輪読し、理論的な見方、歴史的な見方を学びます。また、時事的な国際問題にも関心を深めてもらうため、各自テーマ（たとえば、EU、アメリカなど）を1つ決め、新聞、インターネット等を利用して情報を集め、数ヶ月に1回のペースでそのテーマに関して最新の動向をブリーフィングしてもらいます。          最近、感じるのは、専門書を1冊も読まずに講義の単位をとり、卒業していく学生が多いことです。ある学問分野を極めようと思えば、多数の専門書をしっかり読み、自分自身でそれらを批判的に考えることが必要です。インターネット上の情報を検索して「コピペ」してレポートや卒業論文を書いても、何の勉強にもなりません。そうした情報の真偽を見極める力をつけ、自分自身でオリジナルな情報を発信するためには、基礎的な学問の訓練が欠かせません。          人から与えられて、すぐに身についたと思うような知識、情報、技術は、すぐに時代遅れになり、役に立たなくなります。時代を超えて知識、情報、技術を更新でき、生き抜いていける基礎力を大学時代に身につけてほしいと思います。</p>			
<p><b>【学んだことはどのように生かせるのか】</b>          大学時代に学んだ学問的な見方や幅広い教養は、物事をいかなる視角から見るかという、その人の個性、魅力になります。それは社会人になってからも、さらに磨いていく必要があります。          社会では、様々な問題に直面することでしょう。また、問題になる前に問題を発見する必要もあるかもしれません。そうした社会の問題には、正解がないのが普通です。それに果敢に挑戦し、調査し、分析し、解決策、改善策を提示する上で、上記の学問的な見方、教養が土台を提供してくれるでしょう。まさに出発点になります。</p>			
<p><b>【おすすめの入門書・基本テキスト】</b>          自分自身の関心ある人文科学、社会科学の領域の新書本、文庫本を手にとって下さい。特に、「古典」となっているものには、きっと読むべき価値があるでしょう。なぜ「古典」として読み継がれているのか、その理由を考えつつ読み進めて下さい。</p>			
<p><b>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</b>          大学は自由なところです。受け身で待っているだけでは何も始まりませんし、何も身につけません。自分自身が何を重視して意欲的に4年間を過ごすかが重要です。それは本人次第ですし、まさに自己責任です。これほど厳しいことはないでしょう。</p>			